

# 排卵誘発治療

当院では主に下記の4種類の方法があります。

それぞれ、メリット・デメリットがありますが、患者様の体質を考慮し、実際お話をしながら一番適した方法をお伝えいたします。

いずれの方法も、超音波で卵胞の発育を確認します。

卵胞が十分に成熟した数が多く認められた時点で最終的に卵子を成熟させ、hcgという注射を打ち 35.5 時間後 に採卵します。

(よって採卵日は、基本的に施行日の2日前に決定します。=それまではいつ採卵になるかは分かりません。)

治療名	自然法	クロミッド法 (低刺激法)	アンタゴニスト法	クロミッド+アンタゴニスト
刺激方法		day3 から レトロゾール・クロミッドを 医師の指示する日まで服用。	day3 から 連日①卵を成長させる注射 18 mmを超えた卵が確認できたら、①+②排卵抑制する注射を 打ち、できるだけ卵が育つまで 注射と診察が続きます。	基本はクロミッド法を実施し、 医師の指示する日に ①卵を成長させる注射 ②排卵抑制する注射を 打ち、できるだけ卵が育つまで 注射(or 内服)と診察とが続きます。
来院回数	day10~day12 に診察 ↓ その後は卵の成長が18mm以上確認できるまで医師の指示する日に診察。 ↓	day3 までに薬を取りにくる ↓ day6 頃に診察 ↓ その後は卵の成長が 18 mm以上確認できるまで医師の指示する日に診察。 ↓	day3 から <b>連日来院。</b> 「注射のみ」 時間外注射・自己注射可  or 「診察+注射」 18 mm以上の卵が <b>できるだけ多く確認できるまで</b> 続きます。 ↓	day3 までに薬を取りにくる + 医師の指示した日に「注射」 時間外注射・自己注射可 ↓ その後は卵の成長が 18 mm以上確認できるまで医師の指示する日に診察。 ↓
<p><b>採卵日決定</b></p> <p>採卵開始時間の 35.5 時間前に h c g 注射 (医師指定時間厳守)</p> <p style="font-size: 2em; color: blue;">↓</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; margin-right: 10px;">35.5 時間後</div> <div style="font-size: 3em; color: blue;">↓</div> <div style="background-color: #cccccc; padding: 10px; margin-left: 10px; font-size: 2em; font-weight: bold;">採卵</div> </div>				
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来院回数少ない</li> <li>・ 経済的負担少ない</li> <li>・ 体への負担は少ない</li> </ul>		採れる卵の個数が多いので妊娠できる可能性が高い。	クロミッドとアンタゴニストの間
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採れる卵の個数が0~1個</li> <li>・ 一旦治療中断の可能性有</li> </ul>	採れる卵の個数が1~3個。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済的負担大きめ</li> <li>・ 卵巣に強い刺激を与えているので体の負担が大きい</li> <li>・ 来院回数が多い</li> </ul>	クロミッドとアンタゴニストの間
費用	<p>令和4年4月より <b>保険診療適用</b>となりました。</p> <p>(43歳以上の方・保険適用対象外の治療が含まれる方は自費診療となります。)</p> <p>高額療養費制度・生命保険請求可能な治療ですので、ご自身でご確認いただき申請してください。</p>			

※内容は患者様によっては多少異なることもあります。